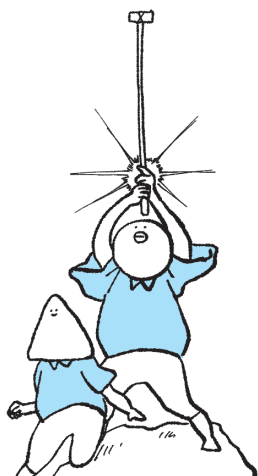


水族館飼育員の

ただならぬ

裏側案内

なんかの菌
Zanka no Kin



はじめに

人は何をしに水族館へ行くのだろうか？

水族館の楽しみ方は人それぞれだ。とりあえず嫌なことは忘れて水の世界に癒やされたいライト層もいれば、推しの生きもののために新幹線で駆けつけるヘビー層までいるだろう。

水族館の人気者といえば、イルカ、ペンギン、サメ、クマノミなどが挙げられる。しかしそのほかにも、一見すると地味で素通りされがちだが遜色のないおもしろさを秘めている生きものたちが、水槽の中にうごめいている。一方その裏側では、彼らの魅力を引き出そうと職員たちが暗躍している。

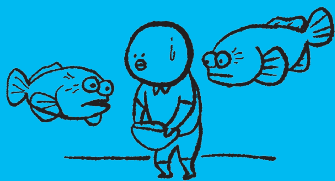
誤解を招きたくはないのだが、水族館の楽しみ方は自由である。迷惑をかけなければ、ライトであろうがヘビーであろうが好きにすれば良く、他人からとやかくいわれる筋合いはない。元水族館職員としてもそう思う。それを前提としつつも、実際は水族

館の中で氷山の一角を眺めていただけでしかなく、その深層にはただならぬ世界が広がっているのだとしたらどうだろうか。

筆者は美術史学専攻から水族館に就職し、飼育員と社会教育係を務めた。専門外の立場から見た水族館とそこでの勤務は、非日常の連続である。本書では、元職員としての自分の経験や、取材で伺った話を踏まえ、水族館の裏側を紹介しつつ、生きものや水族館を違った見方で楽しむ手がかりを提案する。舞台として日本のどこかにありそうな架空の水族館を想定しているので、自身が行ったことのある水族館を思い出しながら読んでいただきたい。

本書がいままで以上に水族館を堪能するための一助となれば幸いである。

なんかの菌



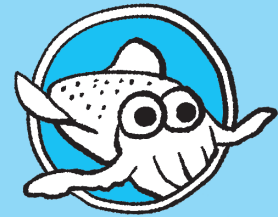
1 海の中へようこそ

004 002 はじめに
フロアマップ

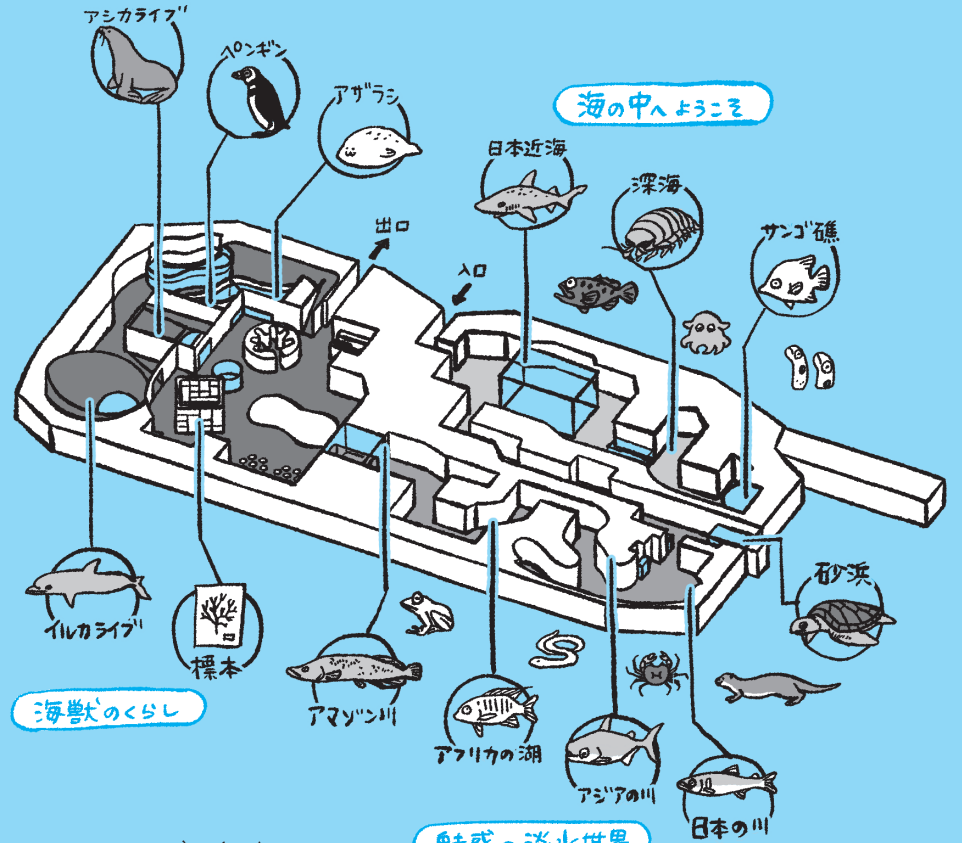
126 おわりに

028 026 024 022 020 018 016 014 012
 すべての水槽に見どころがある
 大食いのイカ、脱出王のタコ
 地味というハイライト
 生きものたちの距離感を見る
 タッチプールの戦士たち
Column 1 水族館で見られる海の生きもの
 魚名板を見逃すな
 1枚の解説パネルができるまで
Column 2 じつはこんなにある、解説パネル

042 040 038 036 034 032 030
 生きものはどこから来たのか
 水槽レイアウトの暗中模索
 水族館水槽のポテンシャル
Column 3 水槽のいろいろなかたち
 油断ならない水槽掃除
Column 4 水槽掃除のいろいろなやり方
Column 5 標本はみんなのお宝



TADANARANU AQUARIUM



2000年代、平成どまん中に日本のどこかでオープンした空想上の水族館です

系図がいっぱいご容赦ください

※白い部分はバックヤード

※2階、地下1階もバックヤード

STAFF ONLY

魅惑の淡水世界

046 予想の斜め上、淡水生物

048 ダイバーシティ・淡水エリア

050 危険生物取り扱い中

052 **Column 6** 水族館で見られる淡水の生きもの

054 給餌というデュエル

056 きよの調餌

058 飼育のための餌の飼育

060 「気持ち悪い」を考える

062 真剣勝負、繁殖

064 海獣じゃないほうの哺乳類

066 **Column 7** 水族館飯の楽しみ



海獣のくらし

070 緻密につくりこまれた海獣ライブ

072 ライブのライブ感を楽しむ

074 サイン出しの裏に

076 **Column 8** 海獣ライブの雰囲気味わう

078 シーズンの変化や成長を追う

080 海獣飼育員の夜

082 容易くはない飼育の仕事

084 **Column 9** 水族館で見られる海獣・ペンギン

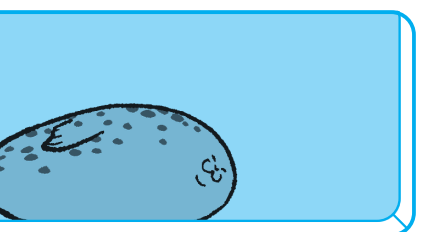
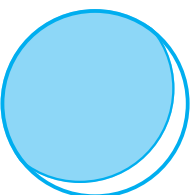
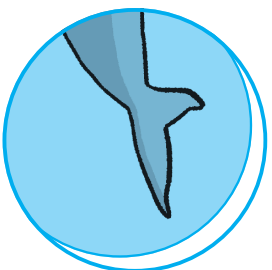
086 飼育員の体、鍛えられすぎ問題

088 チームの空気を感じてみる

090 **空想科学まんが**

魚類飼育員チームと海獣飼育員チームで

野球をしてみる



STAFF ONLYの 向こう側

096 水族館の素顔 バックヤード

098 暗躍する設備係

100 水族館設備に萌える

102 すいぞくかんのはたらくるま

104 飼育員の制服探訪

106 飼育アイテムとDIY

108 **Column** 個人宅と水族館での飼育の違い

110 イベントの裏で

112 **Column** 意外と多い水族館のイベント

114 飼育員の縦横無尽力

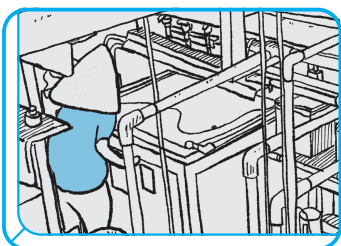
116 メイドイン水族館

118 職員の多様性とその食事^{エサ}

120 水族館と人をつなぐ

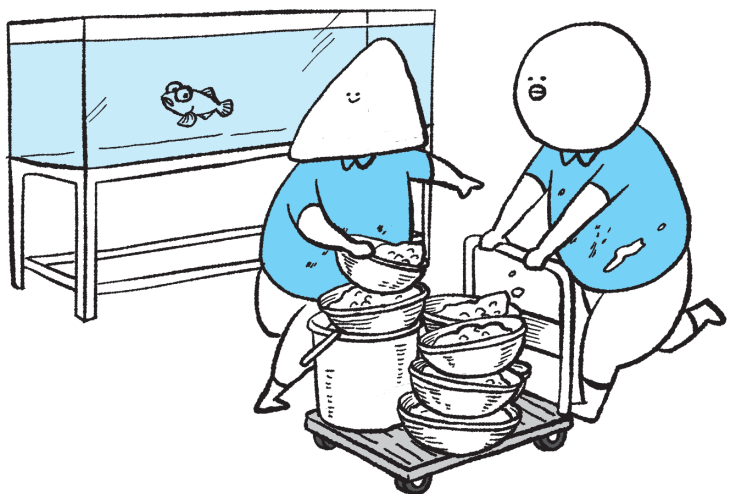
122 来たれ、お客さん

124 飼育員の休日



1

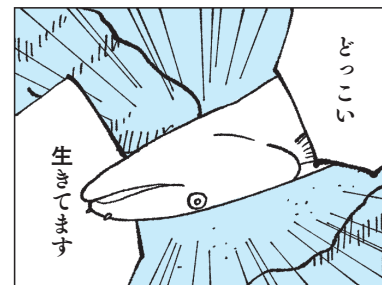
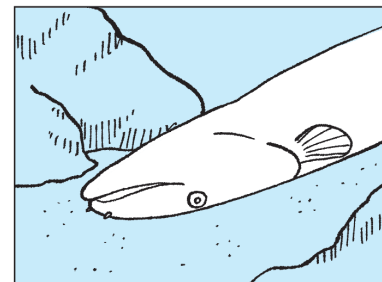
海の中へ ようこそ





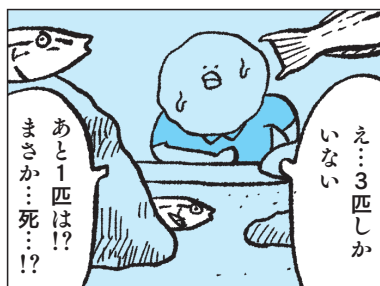
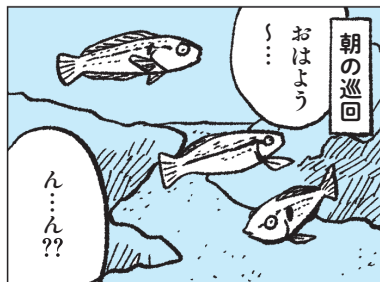
すべての水槽に見どころがある

常習犯



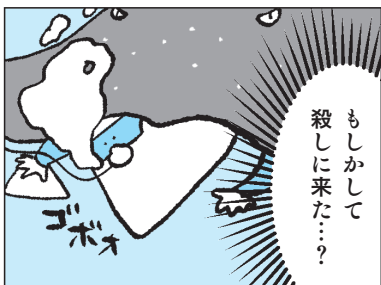
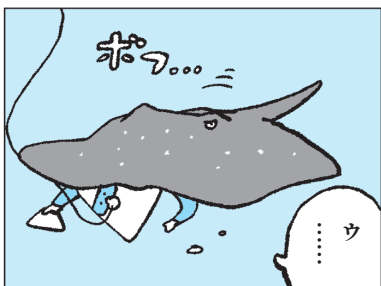
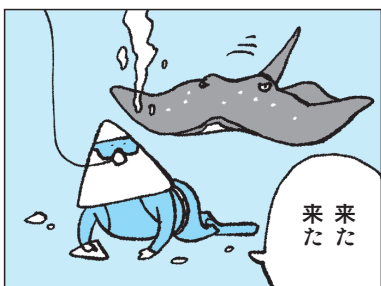
↑ 前科者

復活



↑ 日常の風景

ヤンデレ



↑ 懐いていると「思わされている」...?

水族館の主役はすべての生きものである。イルカ、クマノミなどの人気の生きものも主役。サメやピラルクといった大型種も主役だ。そして、水槽の中でうごめくヒトデやヤドカリ、小さすぎるクラゲの赤ちゃん、そのへんの川で採集してきたサワガニも。文字どおり、すべての生きものが主役なのである。つまりない生きものなどいない。

各園館は、主役たる展示生物のおもしろさを最大限に引き出せるよう、努力を重ねている。では生きもののおもしろさとは何か？

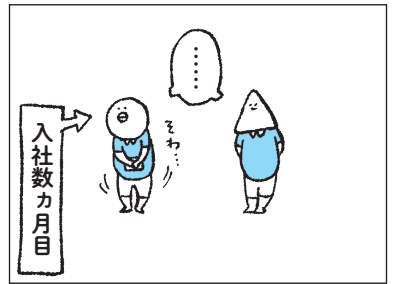
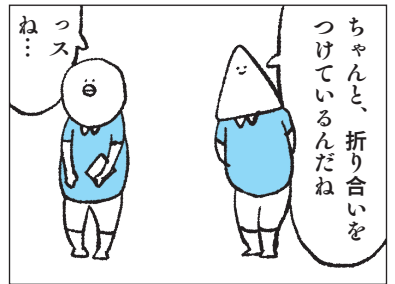
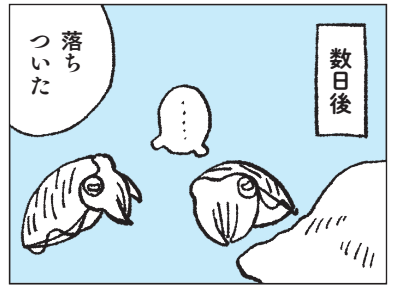
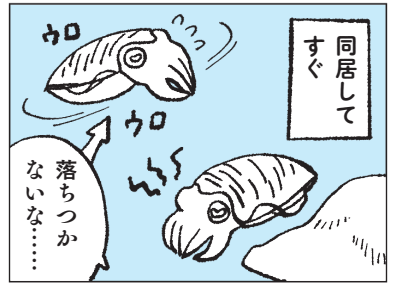
たとえばサメは、約500種もいて、歯はほぼ無限に生え変わり、赤ちゃんの生まれ方も多様だ。そういった知識の断片ももちろん魅力的だ。しかしそれだけではない。

水槽のすみずみにまで目を配ってほしい。じっとしている生きものが周りを窺^{うかが}っている。口の小さな生きものがポソポソと餌を食べている。同種どうしで喧嘩^{けんか}している一方で、誰かが掘った穴を別の誰かが使っていたり。水槽という世界の中で、常に生きものたちの個性が爆発しているのだ。



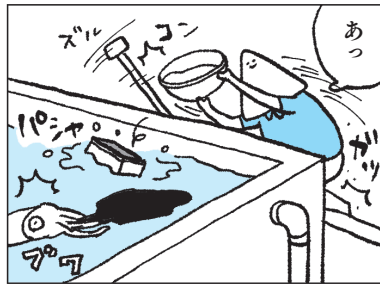
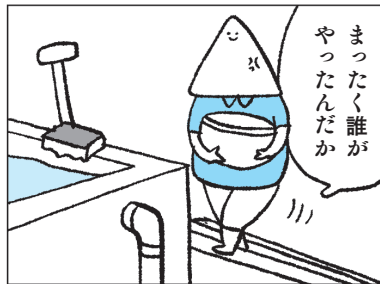
大食いのイカ、脱出王のタコ

距離感

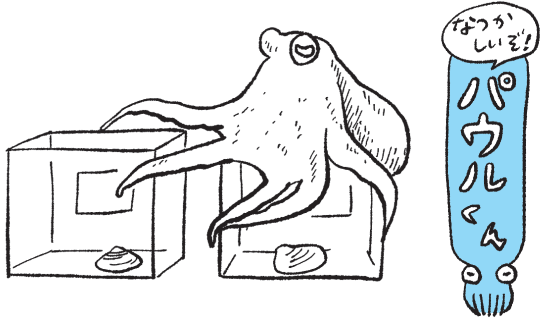


怒っても可愛いのはコウイカ

イカゴラスイッチ

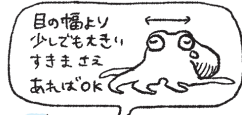


犯人は落水掃除の刑



ドイツ、オーバーハウゼンの水族館、シー・ライフでサッカーW杯2010の勝敗を的中しまったことで話題になったタコのパウルくん。もうみんなすっかり忘れたことと思う。しかし水族館や水産業界は、この「タコに餌を食べさせるだけでマスコミにめちゃくちゃウケる」といううま味が忘れられず、続・パウルくんを目指し、いまもなおW杯やオリンピックに備え日々タコを鍛えているという……。

タコの脱走を防止する



タコは冒険好きなので、すぐに脱走する。結果干物になる、と発見される。



水槽のフチまわりに人工芝を敷くと吸盤が吸い付けないので、脱走を防ぐことが出来る。

水族館でぜひ見てほしい生きもの（基本的には全部）のひとつに、イカやタコなどの頭足類がある。イカは大食いかつ生きた魚を好むので、何度も餌をあげたり、わざわざ生きた餌を用意したりと世話が焼ける。その反面、魚をぎゅっと抱きしめるような姿が可愛い（魚からしたら恐怖の瞬間である）。一方タコは、頭が良いうえによく動く腕がたくさんあるので、しばしば飼育員の目を盗んで脱走する。脱走するとはぼ干物になる定めなのだが、冒険できなければ死を選ぶといわんばかりに、蓋のすきまから旅立っていくのだ。イカもタコも好奇心が旺盛のようを感じる。アオリイカは水槽の前を通るたびにこちらを向いてくるし、タコは腕を伸ばして触ろうとさえしてくる。我々は見ているようで、じつは見られている側なのかもしれない。もちろんまったく興味のない種もあるのだが、ちなみに、同じく頭足類であるオウムガイ類は興味のないようなほうだが、国際取引が制限されており、2025年5月現在、日本では三重県の鳥羽水族館で見ることができない。

水族館で最初に見ることが多い海の生きもの。
 魚類ひとつとってみても、かたちや生態は千差万別である。
 生きものたちの多様さ、海の豊かさに圧倒されてほしい。

水族館で見られる海の生きもの

※一例

ウミサボテン
Cavemularia obesa
 命とは何か?も考えさせられる造形

ニチリンヒトデ
Solaster panillatus
 個体によって腕の数
 が違うらしい

ケヤリムシ
Sabellaster japonica
 触手の一本一本が
 美しく見られる

アカクラゲ
Chrysaora pacifica
 しまようが可愛い
 触手は絡まってもとある
 この絡まり方が好き

アサヒカニ
Ranina ranina
 猫背と目の距離が
 よすぎる哀愁感

カイマリの仲間
Porifera sp.
 いじわるな色かた
 色があって可愛い

スギノキミドリイシ
Acropora muricata
 あまり枝分かれして
 いないのはまだ子ども

アマモ
Zostera marina
 稲のように植えて展示
 小さい生きもの隠れ家

アオリイカ
Sepioteuthis lessoniana
 とにかく美しい
 すっと思えばある
 時間泥棒

シロウニ
Carcharias taurus
 見た目いかついけど
 大人しい
 水槽の底に歯が落ちてくる

メイタカレイ
Pleuronichthys cornutus
 ちょっと立ち上がり
 キョロ目してるのがイイ

ウツボ
Gymnothorax kidako
 何も考えているのかいまい
 わからない顔 奥深い

アカウミガメ
Caretta caretta
 態度が大きい
 噛まれると大ケガする

ターオロン
Megalops atlanticus
 ヒレの位置と顔つき
 にたぶよう原始感
 好き...

ミノカサゴ
Pterois lunulata
 糸を織くのが大変
 なのに依頼数が多い
 月夜部にも
 もようが女は(別種)
 (ハナミノカサゴ)

トビハゼ
Periophthalmus modestus
 すっと思えば食記がない
 胸が腕になる日近い

クマノミ
Hippocampus coronatus
 造形かかた夕達
 どうやって泳いでいるのか?

水族館飼育員のただならぬ裏側案内 なんかの菌

発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

定価：1,650円（10%税込）

発売日：2025年7月4日

ISBN：978-4-7976-7466-8

ネット書店でのご予約・ご注文は [こちらからどうぞ！](#)